



日本SPF豚協会だより

2021.7
No.84

提 言

ニーズの変化に柔軟な対応を

中京学院大学経営学部専任講師

仲川直毅



新型コロナウイルスの感染拡大により、豚肉消費の方法や豚肉の購買行動に変化が生じている。豚肉の購買行動に変化が起こっているのだから、当然、豚肉を含めた食肉の販売面でも変化が生じている。

まず、食肉の販売に関して、公益財団法人日本食肉流通センター『新型コロナウイルス感染症関連での食肉業界の状況等』によれば、卸売段階では、「外食への販売依存度が高い社ほど売上減少」(1ページ)したとしている。この売り上げ減少の要因の一つとして、豚肉の場合、「外出を控える家庭が増え、家庭内での消費が増えて豚肉を食べる機会が多くなった」(8ページ)ことが考えられるとしている。外食産業向けの需要が減少する一方で、小売段階では、スーパーマーケットの食肉の売り上げが好調なようである。例えば、一般社団法人全国スーパーマーケット協会『2021年版 スーパーマーケット白書』では、2020年のスーパーマーケットの畜産の年間売上高は、2019年との対比で9.9%(全店ベース)増加した(14ページ)と紹介されている。スーパーマーケットの食肉売り上げが増加していることから、豚肉の売り上げも減少することなく、増加しているのではないかと考えられる。

次に、食生活全般や食肉の購買行動の変化に関して、公益財団法人日本食肉消費総合センター『令和2年度「食肉に関する意識調査」報告書』によれば、昨年(2019年)同時期と比較して、食生活や食肉の購買行動に変化はなかったとアンケートに回答した消費者は、約3分の1(31.1%)であったとしている。その一方で、アンケートに回答した消費者のうち「外食の機会が減った」と回答した消費者が43.2%、「自宅で食事する機会が増えた」が35.4%、「食肉の購入回数を減らして、まとめて購入するよう

になった」が27.5%、「家族そろって食事する機会が増えた」が15.0%、「簡単・時短の肉料理を作るようになった」が11.9%、「持ち帰り・テイクアウトの利用が増えた」が11.5%(61ページ)であったとしている。この結果から、少なくとも半数以上の消費者は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、食生活や食肉の購買行動を変化させていると予測することができる。

豚肉の生産や流通に携わる豚肉業界の関係者は、このような変化に柔軟に対応していく必要がある。変化に対応していくための課題として、取引先の現状を正確に把握したうえで、今後の販売先について、適切な状況判断をすることや既存の取引先とのさらなる連携強化、新規取引先の開拓、言い換えれば、現在の販売実績をもとにした主要な販売先の適切な見極めや販路の確保をあげることができる。この課題は、商品の生産や販売に携わる事業者からみれば、基本的な課題である。また、基本的であるがゆえに、大多数の事業者が状況に応じて、柔軟に販路の確保や主要な販売先の適切な見極めを行っているとは推察できる。このことから、販路の確保や主要な販売先の適切な見極めという課題は、新型コロナウイルスの感染拡大によって生じた新しい課題ではないといえる。しかしながら、まず、この基本的な課題に対して真摯に取り組み、乗り越えることで、はじめに次になすべきことがみえてくるのではないかと考えられる。

生産面では、豚熱の発生、販売・消費の面では、新型コロナウイルスの感染拡大と、これらの影響を考えれば、現在の豚肉の供給動向や消費者の豚肉に対するニーズなどを把握することもなかなか容易ではない状況にあると思われるが、今後、SPF豚の生産や販売に携わる各主体の活動が、取引先や消費者のニーズに沿った形で発展することを期待したい。

今年度の定時総会は リモート参加と併用で開催 全議案を承認

●令和2年度事業経過報告

協会事業もコロナ禍の中、大幅な制限を受けざるを得なくなりました。と場や農場への立ち入りが制限され、ヘルスチェックが実施できず認定期間延長農場が相次いだことを受け、この状況は非常事態であると判断し、2月に協会独自の非常事態宣言を発出、期間限定の代替検査による認定申請を認めることをピラミッドに通知いたしました。

セミナーも中止せざるを得ませんでした。恒例の成績優秀農場表彰は、農場やピラミッドの協力のもと、現地で表彰式を行い、選考委員長である濱岡隆文認定委員長の講評と併せ動画撮影、協会ホームページで公開する形で実施することができました。また、CM農場生産成績年次報告も同様にホームページにて公開しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定時総会・理事会は書面決議、例年10月に出席していた「ちくさんフードフェア」も中止となりました。千葉県認定農場に協力いただいている「こども食堂」への食材提供は、食堂開催そのものが中止状態です。

新型コロナ対策としては、リモートワーク、時差出勤、空気清浄機の設置、協会事務所内抗菌コーティング、AI認証による体温測定、アルコール消毒液の常備等を徹底する一方、認定委員会や役員会は三密を避けるため、Web会議を併用しました。

継続事業となっているSPF豚農場認定細則整備は、引き続き動衛研・山田俊治先生の監修のもと、ピラミッドの意見集約を重ね、令和3年度の総会に諮る最終案の準備を進めました。協会だよりは予定通り79号、80号、81号、82号を発行いたしました。

協会ホームページは、前述の動画公開と併せ協会だよりのバックナンバーも掲載、会員メーリングリストを活用し内容を紹介するなど、情報提供の有力なツールとして活用いたしました。

また、豚熱の発生や中国・東南アジアにおけるASF拡大を受け、農林水産省関係部署より依頼を受け、ホームページや協会だより、ピラミッドを通じて情報提供し、防疫意識の再徹底を促す注意喚起も行いました。

認定農場数は179農場（G GP、GP19農場、CM160農場）

で前年度と変わらず、飼養母豚数は77,656頭となり、2,123頭（2.7%）増となりました。これは中小規模農場の退会があった一方で、新規農場の加入や大規模農場の認定復活があったこと、大規模農場のフル稼働生産によるものです。

CM農場の生産成績をみると、一貫経営農場では1母豚当たり年間出荷頭数が22.8頭（昨年度22.5頭：全国平均19.6頭）と0.3頭増加、A薬品費（抗菌性物質）は242円（昨年は249円：全国平均は800円強）で7円減少、農場要求率は3.14（昨年度3.14）でした。繁殖専門農場（繁殖-II）では1母豚あたり年間出荷子豚頭数が24.3頭（昨年度23.4頭）で0.9頭増加、A薬品費は110円（昨年131円）で21円減少しました。肥育専門農場（肥育-II）はA薬品費が121円（昨年131円）で10円減少しました。認定農場の地道な努力が伺われます。

●令和3年度事業計画

◎協会の将来像、認定制度のあり方についての検討

10年後を見据えた協会のあり方、ヘルスチェック検査の課題等について、諮問委員会の設置に向け検討を進めていきます。

◎新細則に基づく認定業務への移行

整備された認定細則に基づく認定申請の準備期間とし、新様式の認定申請を現行の認定申請と併用しながら進め、次年度の完全移行を目指します。

◎認定委員会の開催

認定委員会は6、9、12、3月の計4回開催します。状況に応じてWeb会議も併用します。

◎防疫設備基準、防疫管理基準の徹底

SPF豚農場認定規則及び細則に基づき、厳格な運用を行います。

本年度の定時総会（代議員会）は6月16日（水）、東京都千代田区のKKRホテル東京において開催いたしました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大を受け、書面決議での開催となりましたが、今回は感染対策を徹底し開催する一方、リモート参加の環境も整え、委任状含めほぼ全員の出席をいただくことができました。昨年度の事業経過・決算報告、代議員改選案、今年度事業計画案および予算案などすべての議案について、ご承認いただきました。事業経過報告および事業計画案の概略を掲載します（会員の皆様には議案および議事録をお送りいたしました）。

◎認定成績集計結果のフィードバック

SPF豚農場認定申請の際に提出される生産成績を集計して、認定証発行時にこれまでの成績の推移を、また年度末に、各認定項目の順位表を、各ピラミッドを通じて農場にフィードバックします。ベンチマーキングに活用して農場成績の改善に役立ててもらいます。また、生産成績のランク分けについて、絶対評価の導入も引き続き検討します。

◎生産成績優秀CM農場の表彰制度の継続

引き続き、総合生産成績および商品化頭数について最も優れた成績を収めた農場を選考委員会により選定、表彰します。また、表彰の対象項目についても引き続き検討を加えていきます。

さらに、過去の生産成績が、一定期間上位25%に位置している農場には成績優秀の証しとして認定証にAマークを付記します。維持年数・割合等についてはその都度検討します。

◎SPF豚セミナーの開催

従来通りの一堂に会しての開催も視野に入れつつ、オンライン開催等の可能性も模索していきます。テーマ等についてはピラミッド会議で検討します。

◎ピラミッド会議の開催

セミナー開催のあり方やテーマ、諮問委員会の設置のあり方等、協会の今後について具体的に検討いたします。

◎協会だよりの発行と協会ホームページの充実

協会だより83号(4月)、84号(7月)、85号(10月)、86号(1月)を発行します。協会ホームページとあわせ、会員への情報提供、会員と協会をつなぐ重要なツールとして、内容の充実を図ります。

◎実験用家畜ブタ生産農場のAW状況調査と啓発

今後の可能性を探るため、調査等を実施し実態把握に努

めます。

◎SPF養豚に対する勉強会や情報交換会の実施

現況では大規模集会は困難かもしれませんが、人数を絞っての勉強会や情報交換会、オンラインでの実施も検討します。農場管理獣医師との連携や、と畜場に対するヘルスチェックへの協力要請等も検討します。

◎販促用資材等の提供

店頭用ポークリーフレット、協会パンフレットを引き続き希望会員に無料で配布します。協会パンフレットの改訂版作成も検討します。また、認定マークの積極的な使用を会員に働きかけます。

◎食育等への協力

千葉県の認定農場と協力し、引き続きこども食堂へのSPF豚ポークの提供を行っていきます。こども食堂の活動状況を把握しながら、可能性を模索していきます。子どもの食に対する関心を喚起し、他の地域での態勢づくりも引き続き検討していきます。

◎SPFポークの普及

協会だよりやパンフレット、協会創立50周年記念誌等の電子書籍化を検討、幅広い層にSPF養豚やSPFポーク、協会に対する理解を深めてもらうよう努力します。

日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア」が中止となり、残念ながら今年も10回目の出展はなりません。負担の少ない形で参加できるイベントがないか、情報収集を続けます。

認定農場の直売やネット販売等の状況、SPFポーク販売店の情報について収集・整備し、正しい情報をホームページ等で提供していきます。

専門家によるSPFポークの市場調査や食味試験などを実施できないか、可能性を探ります。

（理事の改選については7ページの「協会からのお知らせ」に掲載）

2020年7月改正の飼養衛生管理基準(豚)では畜舎ごとの専用の靴および大臣指定地域では衣類の設置と使用が規定されました。ではこの改正によって踏込消毒槽は不要になったかというところではありません。屋根壁がある連絡通路など畜舎外において病原体に汚染する可能性がない場合は履物の交換は必須ではありませんが、それでも通路に踏込消毒槽を置いて消毒することは限界があっても病原微生物の伝播防止に有効だからです。

図1はブドウ球菌の一種でスス病原菌スタフィロコッカスハイカスに対する表示した薬剤の通常より濃い濃度による除菌効果です。この結果からこの菌に対しては消石灰乳や逆性石けん液は浸漬時間が30秒以下では無効です。一方、過酢酸製剤は他剤より有効です。表はサルモネラ ティフィムリウムに対する消石灰の除菌効果です。消石灰乳に10秒でも浸漬した場合、この菌を4桁以上除菌しますが、粉末では6時間作用させても除菌効果はありません。予め1秒間濡らした後、粉末につけた場合はやや有効です。

消石灰乳はpH12前後の高いpHによって病原体のたんぱく質等を変性させて不活化する一方、病原体のpH感受性には違いがあり微生物の種類によって不活化効果が異なるとされています。上記の実験で特に消石灰乳は同じ作用時間でも菌種が違うだけで除菌結果は大きく異なります。実験エラーではありません。理由は細菌をグラム染色により分類した場合、グラム陽性菌(ブドウ球菌、レンサ球菌、クロストリジウムなど)はアルカリ性に耐性があり、グラム陰性菌(サルモネラ菌、大腸菌、マイコプラズマなど)はアルカリ性に敏感とされ、これが原因と考えられます。このように強いアルカリ性を主作用とした薬剤の短時間での消毒効果は限界があることを知っておく必要があるでしょう。

次に踏込消毒槽の使い方です。2槽でも1槽目に水を入れるのではなく消毒薬を入れて、洗浄と共に消毒します。汚れたら1槽目は捨てて新調し、2槽目を手前に移動することを勧めます。理由は絶対的に足りない消毒時間をより長くするためです。

踏込消毒槽の利用価値を高めるには靴底に汚れが付きにくい特許長靴を利用し、消毒薬を濃くすること、短時間でも低温でも有機物があっても多くの病原微生物に有効な過酢酸製剤を用いることです。

図1 踏込消毒槽を想定した超短時間の除菌効果 (10秒・30秒)
 <対照菌：スス病起炎ブドウ球菌 Staphylococcus hyicus ≧10の9乗個>

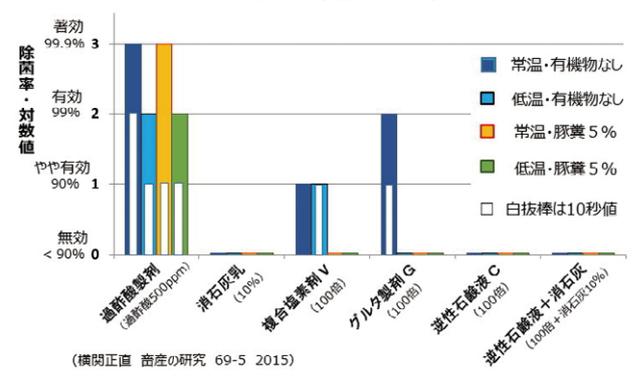


表 長靴ゴムに付着させた Salmonella Typhimurium (≧10の8乗個) に対する除菌効果

薬剤	浸漬時間	除菌率
石灰乳 10%溶液	10sec	>99.99%
	30sec	>99.99%
	3min	>99.9999%
	30min	>99.99999%
	6hrs	>99.99999%
消石灰粉末	10sec	<90%
	30sec	<90%
	3min	<90%
	30min	<90%
	6hrs	<90%
水に1秒間漬けた後に消石灰粉	10sec	>90%
	30sec	>90%
	3min	>99%
	30min	>99.99%
	6hrs	>99.99%

横関正直 畜産の研究 69(2) 2015

第6回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報



踏込消毒槽 あれこれ

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅真佐男



TOPICS

オゾン発生装置 「レスパー」のご紹介

株式会社 藤橋商店
八木勇樹

近年、豚熱が流行し、防疫対策が強化されている中、オゾンが注目されています。

オゾンは強い殺菌力を持ち、しかも残留しないという例外的な物質です。

オゾンの特徴として、一つ目は強い酸化力です。消毒に広く用いられてきた塩素の6倍とも言われています。それだけに高濃度では人や家畜にも有害となりますが、濃度を調整し、運用することで優位に殺菌や脱臭を行う事ができます。また、脂質・タンパク質・核酸などを次々と酸化することで細菌を殺しウイルスを不活化します。抗菌剤・抗ウイルス剤と違い、分子を壊していくため、相手を選ばないのが特徴です。伝染病発生時に病原体が不明の段階でも消毒に使用することができ、予防消毒の際にも想定対象によって薬剤を変える必要がありません。さらにアンモニアを始めとする無機化合物やメタンなどの有機化合物を酸化して分解する作用も持ち、高い脱臭力を発揮します。

二つ目は薬剤耐性菌を生まない事です。薬剤耐性を得た細菌・ウイルスはまたたく間に増えて病害を蔓延させますが、オゾンは強い酸化力によって病原体に多方面から攻撃をしかけるため、薬剤耐性を生みにくいという特性があります。

三つ目は残留性がない事です。オゾン分子は化学的に不安定で、通常的环境下では自然に酸素に分解していきます。病原体が排除され薬剤成分の残留もない安全な空間で飼育を行うことができ、クリーンさをアピールすることもできます。

四つ目に低ランニングコストです。オゾンは発生機器と水と電源があれば発生させることができ、頻繁なメンテナンスもなく、人手を必要としないのがメリットです。また、ほとんどすべての細菌・ウイルスに効果を発揮するため、薬剤費と管理費用が削減できます。

当社の「レスパー」はオゾンを有効に活用し、世界唯一の異種光触媒を搭載した製品です。異種光触媒は特殊金属をコーティングし、広域波長UVランプとの光触媒反応により、空気中の水分から過酸化水素のイオンを発生させます。オゾンと過酸化水素のダブル作用により、より高い効果と安全性を両立しました。NASAの宇宙ステーションでも採用された、自然界の空気を浄化するプロセスの研究から生まれた、人のカラダにもやさしい技術となっています。

<問い合わせ先>株式会社 藤橋商店

〒679-4315兵庫県たつの市新宮町井野原143番地

TEL: 0791-75-2651 FAX: 0791-75-0589

担当者: 八木勇樹(090-5137-3886)

自然界の空気浄化システムを応用して、除菌・脱臭。
安全に健康空間をつくり出す。

世界初 NASAが開発したテクノロジー

ReSPR TECHNOLOGIES レスパー

CERTIFICATION: NCC, BASED ON

PORTABLE, HVAC, DuctStation

世界28カ国で700万台の実績

2. ReSPRの特徴

様々なカビ・菌・ニオイに効果



次頁にインフルエンザウイルス、ノロウイルス不活化データを記載しています

カビ・菌・ウイルス対策、ニオイ対策での採用実績

上記データは測定の一例です

自然界の空気浄化プロセスを研究し実用化された
世界初のNCCテクノロジー 異種光触媒 TECHNOLOGY

NCCテクノロジーとは？
ハニカム状のセルに特殊金属をコーティングし、広域波長UVランプとの光触媒反応により、空気中の水分から過酸化水素(H₂O₂)のイオン等を発生させるテクノロジー。NASAの国際宇宙ステーションでも採用された、自然界の空気を浄化するプロセスの研究から生まれた、人のカラダにやさしい技術です。

● NCCセルの構造

● 異種光触媒の仕組み

協会からのお知らせ

●理事の改選

今年度は理事の改選期となります（任期2年）。今年度の役員は次の通りです。よろしくお願いいたします。（順不同、敬称略）

- 会 長 北島 克好（再任）
- 副会長 秦 政弘（再任、サンエスブリーディングピラミッド）
- 副会長 坂口 一平（再任、全農畜産サービスピラミッド）
- 理 事 増穂 賢志（再任、シムコピラミッド）
- 理 事 金内 一浩（再任、ホクレンピラミッド）
- 理 事 大関 輝男（新任、日本農産工業ピラミッド）
- 理 事 日浅 文男（再任、(有)道南アグロ）
- 理 事 矢吹 和人（新任、(有)常陸牧場）
- 理 事 下山 正大（再任、(有)下山農場）
- 理 事 小椋 和典（再任、(株)西日本ジェイエイ畜産）
- 理 事 太田 昇（新任、(株)ファームテック）
- 理 事 藤田 世秀（再任、専務理事）
- 監 事 川島 力（再任）
- 監 事 飯田 恭久（再任、全農畜産サービス(株)東日本原種豚場）

●林 寛康理事が退任

20年以上にわたり協会役員としてご協力いただきました林寛康氏（千葉県・(株)林商店）が退任されました。林氏には最後にご出席いただいた3月の理事会の席において、協会より感謝状と花束を贈呈いたしました。長い間本当にお世話になりました。



●代議員の交代

中国・四国地区選出代議員の川島力氏（愛媛県・(株)ユキザワ）が辞任、池田員美氏（香川県・(株)七星食品）が就任い

たしました。川島氏には引き続き協会監事をお務めいただきます。また、組織内人事異動により九州地区選出代議員が松本伸一氏（宮崎県・(株)ファームテック）から太田昇氏（同）に、日本農産工業ピラミッドの代議員が金子政弘氏から大関輝男氏に、それぞれ交代いたしました。

●認定委員の交代

全農畜産サービスピラミッドの認定委員が井片彩乃氏から飯田恭久氏に交代いたしました。

●SPF豚農場認定細則を整備

2016年に改正された認定規則に基づく細則が整備されました。農研機構動物衛生研究部門・山田俊治先生にご尽力いただき、従来GGP・GP農場とCM農場ごとに設けられていた防疫基準やヘルスチェック基準、生産成績算出基準などを一本化し成文化しました。

飼養衛生管理基準との整合性等に留意し、文言や様式等を整理しておりますが、基準そのものや算出方法に変更はありません。詳細については次号以降にご紹介いたします。

プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



冷やしトマト担々麺

●レシピ提供・BAKAWARAI じゅん粋

高橋秀輔 (東京都武蔵野市)

今回のレシピはバラ肉とトマトがメインの担々麺をご紹介します。盛り付けにもプロのひと工夫が。さっぱりして栄養バランスもよく夏にぴったりですね。ぜひお試しください。

- 材料 ● (2人分)
- SPFバラ肉 100g
- きゅうり 1本
- 中華麺 2玉
- 白胡麻 適量
- <スープ>
- 新玉ねぎ 2分の1個
- トマト 1個
- 胡麻ドレッシング 300ml
- めんつゆ(濃縮) 25cc
- しょうゆ 20cc
- おろししょうが 15g
- おろしにんにく 1かけ分
- ラー油 10g
- ごま油 10g
- サラダ油 10g
- はちみつ 15g

花山椒 少々(お好みで)

● 作り方 ●

- ① トマトと新玉ねぎをミキサー等でペースト状にします。
- ② ①にその他のスープの材料を入れてよく混ぜます。
- ③ きゅうりは千切りにします。
- ④ 豚肉をお湯にくぐらせ、色が変わったらぬるま湯で冷まします。
- ⑤ 中華麺をゆでて氷水で洗い水気を切っておきます。
- ⑥ お皿にスープの半量を入れ、その上に⑤を乗せ、残りのスープをかけます。
- ⑦ ③と④を乗せて、白ごまをかけて出来上がりです。

★高橋シェフからのアドバイス

豚バラ肉をくぐらせるお湯は80℃くらいで、ぬるま湯で冷ますとやわらかく美味しくなります。麺は表記されている時間よりプラス1分ゆでて氷水で洗うとちょうどいい硬さになります。

認定情報

●令和3年6月認定農場

(有効期間：令和3年6月4日から4年6月末日まで)

北海道・鈴木ビッドファーム、青木ピッグファーム(株)、(有)フロイデ農場、岩手県・全農畜産サービス(株)東日本原種豚場、(株)のだファーム第一農場、同第一肥育農場、茨城県・(有)弓野畜産繁殖農場、同八郷農場、同千代田農場、(有)篠崎畜産、千葉県・(株)ユウアイ、高橋幸雄養豚場繁殖農場、同肥育農場、(有)ピギー・ジョイ第1農場、木内養豚第1農場、同第2農場、石毛宏司養豚場、宮澤泰徳養豚場、愛媛県・富永

※次回認定委員会は9月9日(木)の予定

養豚、(株)多田ファーム、JA西日本くみあい飼料(株)愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、(株)多田ファーム天貢農場、佐賀県・JAさが天山ファーム、長崎県・(株)伊藤ファーム、濱田養豚、JA全農長崎県本部五島種豚供給センター、宮崎県・(有)レクスト繁殖農場、同肥育農場、ジャパンミート(株)川南農場、ジャパンミート(株)御池農場、クリーンファーム(株)、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)三笠農場、(有)さつま農場、(株)かいたく大口農場(以上34農場)

※3月の認定委員会で3か月の認定期間延長が認められ、今回認定された農場

秋田県・(有)十和田湖高原ファーム、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、全農畜産サービス(株)秋田大仙SPF豚センター、千葉県・鈴木治彦養豚、(有)伊藤養豚飯岡農

場、(有)籾木ピッグファーム、宝理養豚繁殖農場、同肥育農場、島根県・奥出雲ファーム(有)、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、宮崎県・(株)ナンチクファーム守山細田農場、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)出水農場、同阿久根農場(以上13農場)

日本農産工業株式会社
畜産技術センター
(茨城県つくば市)



SPFの
ひと
ピラミッド編



▲日本農産工業(株)畜産技術センター

▼SPF豚認定業務を担当する櫻井忠さんと小柳理恵子さん



▲大関輝男・畜産技術センター所長

会員に貢献し続ける生産ピラミッド目指して

協会の柱ともいえる生産ピラミッド。

今号では日本農産工業(株)生産ピラミッドのご紹介をお願いします(編集部)。

皆様こんにちは。3年ぶりに理事になりました日本農産工業(株)の大関 輝男です。今回は弊社で日本SPF豚協会に関する業務を行っている部署の紹介をいたします。日本農産工業(株)生産ピラミッドの成り立ちについては、SPF豚40周年記念誌「ハイヘルス養豚への挑戦」と「SPF豚協会50年史」に記載されていますので割愛させていただき、理事と認定委員の所属する弊社畜産技術センターについて記述します。

〔畜産技術センターの沿革〕

畜産技術センターは、1964年に前身の養鶏場として現在地の茨城県つくば市に開場され、「中央研究所筑波試験場」として1978年から養豚を開始しました。1994年に新研究棟を建設し、当時千葉県船橋市にあった「中央研究所(本所)」が移転して新しい「中央研究所」となりました。筆者が入社したのはこの前年です。その後「研究開発センター」、「畜産技術センター」と改組され現在に至ります。

同センターは弊社の畜産飼料の研究開発や技術開発が主な業務で、豚をはじめ採卵鶏やブロイラーの研究開発用畜舎を有しています(牛用飼料の研究開発は北海道の子会社で行っています)。また同じ敷地内に子会社のペットフード研究開発部署と、製品の品質保証・品質管理のための分析・検査を実施している部署が同居しており、水産飼料を除くグループの研究開発を担っています。

〔SPF豚事業と畜産技術センター〕

1988年に中央研究所筑波試験場でSPF豚作出のための帝王切開

手術の技術開発が「SPF豚プロジェクト」として行われ、すでに開発済みの人工哺育技術と組合せられました。帝王切開手術から哺育までの施設が今も残っています。1987年にカナダ・アメリカで習得した帝王切開手術を1988年4月13日にこの施設で実施したところ、初手術には7時間37分かかり12頭の子豚を育成できたとの記録が残っています。その後の訓練により4時間半から5時間程度でできるようになり、現在では改良を経て3時間程度で終わられるようになりました。帝王切開手術を行っていた施設に入ると当時の関係者の苦労や情熱が伝わるように感じます。

協会に加入した当時は事務関係を神奈川県横浜市の本社が、技術関係を中央研究所筑波試験場と農場会社(現(株)ファームテック)が主に担当してきました。2012年度からは事務関係も畜産技術センターに集約することになり、現在理事は大関、認定委員は櫻井忠が担当しています。

〔終わりに〕

以上は記念誌に記載されなかった日本農産工業(株)生産ピラミッドの黎明期における活動の一端です。SPF豚の取組開始から30年以上が経過し、役割や求められる期待も変化していますので、時流に沿った技術導入や運営を進めていきたいと思っております。今後も協会の皆様に貢献し続けていけるよう活動して参りますのでよろしくお願いいたします。

編集後記

新型コロナもトンネルの出口が見えかけてきました。しかし、心配の種は豚熱の偶発的でエリア非限定的な発生です。ワクチンの効果はどこまで発揮されているのか疑問もわかります。それに、いつまでも断続的発生を繰り返すPEDはもう9年目を迎えます。当初夏季には収束というストーリーもありましたが、農場バイオセキュリティ強化のためには踏込消毒槽一つとっても、ただ設置するだけでなく、理論的に正しいかどうか細かく見直す必要がありそうです。また繰り返しになりますが、農場従事者の衛生観念の再教育も必要になるのかもしれない(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第84号 2021年7月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀